

# **第1回 斐伊川水系 生態系ネットワークによる 大型水鳥類と共に生きる流域づくり検討協議会**

## **取組の背景について**

**平成27年4月28日**

# 斐伊川水系 生態系ネットワークについて

## 1. 生態系ネットワークとは

野生の生きものは、繁殖の場や採食場、休息する場など、さまざまな場を必要とし、それらの間を行き来・交流しながら、個体としての生活史や個体群を維持している。生きものの生息に必要なまとまりのある重要な自然を守り、つくり、そしてつないでいく取組。



## 2. 生態系ネットワークによってもたらされる恩恵

生態系ネットワークが形成されると、生物多様性・生態系が確保され、“生態系サービス”の恩恵を、人類は持続的に享受することが可能となる。

**エコロジカル・ネットワークで豊かになる私たちの自然、産業・経済、生活**

**エコロジカル・ネットワークが作られると…**  
 エコロジカル・ネットワークの取り組みを進めると、生物多様性の保全、ヒートアイランド現象の緩和、延焼防止などの防災効果、魚などの自然資源の確保、レクリエーションの機会の増加など、さまざまな効果が期待されます。

エコロジカル・ネットワークで豊かになる私たちの自然、産業・経済、生活

**子どもがいつでも、近所の自然のなかで遊ぶことができます。**

**一度姿を消したコウノトリや、ガンなどの渡り鳥も戻ってきます。**

**将来この森から、多くの医薬品がうまれます。**

**川に氾濫原を確保することによって、洪水による被害が軽減されます。**

**アユやサケなどの魚が、川を行き来できるようになります。**

**川沿いを生きものが移動できるようになります。**

**植物や土の作用で水が浄化され、私たちは美味しい水を飲むことができます。**

**庭の木に色々な野鳥が来るようになります。**

**山や川の豊かな恵みを受けて育った天然の魚を、安心しておいしく食べられるようになります。**

**植物や水辺が配置されることによって、涼しい風がまちに入ってきます。ヒートアイランド現象も緩和されます。**

**豊かな自然資源が、豊かな産業を支えてくれるようになります。**

**山や川の恵みが回復することで、海の資源が豊かになります。**

**バイオエネルギー**  
樹木は炭素を蓄積し、バイオエネルギーが新しいエネルギー源として注目されています。

### 3. 対象地域



## 4. 取組の背景と目的

### 自然条件

- 斐伊川水系は、ラムサール条約登録湿地に象徴される国際的な評価の得られた豊かな水辺環境を有し、多くの大型水鳥類が集まる希有の地域である。
- わが国の希少な大型水鳥類は、  
①ハクチョウ類 ②ガン類 ③ツル類  
④コウノトリ ⑤トキの5つに大別され、これら全てが安定的に生息可能となる潜在性は、斐伊川水系が国内唯一である。

### 社会条件

- 国の主要環境政策としての位置付け
- 現在、佐渡市のトキや豊岡市のコウノトリ等々、大型水鳥類をシンボルとした地域振興が活発化しており、斐伊川水系でも同様の展開が十分可能な資源価値を有している。
- 出雲市ではトキの分散飼育の着手、「出雲市トキによるまちづくり構想」を策定し、トキをシンボルとした人と自然が共生する地域づくりに取り組んでいく方向性が示されている。

### 斐伊川水系 生態系ネットワーク

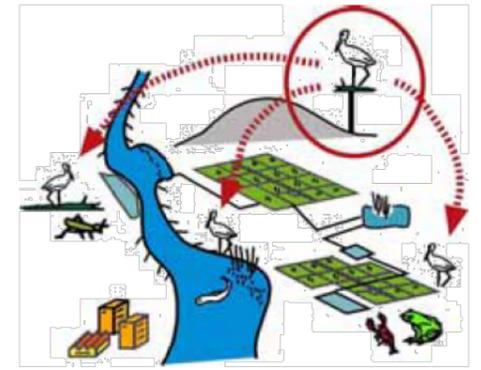
本取組は、5種の大型水鳥類を指標とし、斐伊川水系の有する豊かな水辺環境を最大限に活かし、自然環境保全と地域経済が両立した生態系ネットワークの形成を目指す。



## 5. なぜ、大型水鳥類なのか

### 様々な環境を複合的に活用する生きもの＝自然と調和した多様な環境があることの象徴

- 大型水鳥類の多くは、一定以上の良好な水辺環境を広範囲に移動して生息・繁殖・越冬する習性をもつことから、行政界の枠を越えた広域レベルの水系ネットワークの指標として適した存在である。
- 斐伊川水系で越冬するガン類、ハクチョウ類、ツル類、かつて留鳥として生息していたコウノトリ・トキは、行動パターンによって河川や水田、草地など様々な環境を複合的に利用している。
- 例えば、成鳥一羽が一日に必要な採食生物はコウノトリ約 500g(ドジョウ換算で 70~80匹)、トキ約 200g(同 25~35匹)にのぼる。

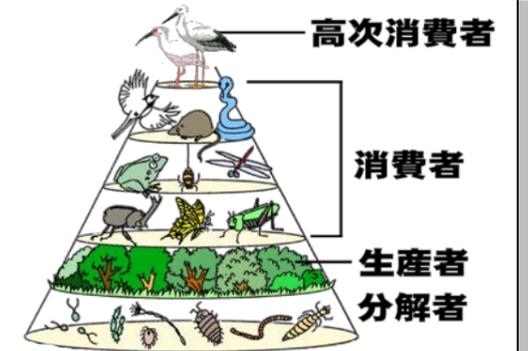


出典：内藤和明・大迫義人・池田啓(2003)  
「豊岡盆地に飛来したコウノトリの行動範囲と利用環境」

5種の大型水鳥類が越冬、生息・繁殖できるということは、その地域に多様な環境(河川、農地、水路、雑木林、森林、湿地等)があり、かつそれぞれの環境に生物資源が豊富に存在することの証拠と言える。

### 生物多様性のシンボル

- 大型ガン類やハクチョウ類、ツル類が越冬に利用する、まとまりのある湿田や湿地は、カモ類などの小型水鳥類をはじめ多くの生きものが越冬・生息できる環境を有する。
- コウノトリ・トキともに肉食の鳥であり、里地・里山の生態系ピラミッドの頂点に立つ高次消費者。
- 高次消費者であるため、農薬や殺虫剤等の影響を受けやすく、生物濃縮による繁殖能力の低下や衰弱なども、絶滅の要因のひとつ。



指標種が越冬・生息できるということは、その地域に多様な生物が生息できる環境があること、人間にとっても安心・安全な環境があることを意味する。

### シンボル性が高く、広く受け入れられやすい存在

- ハクチョウ類やコウノトリ、トキといった白くて大きな鳥や、ガン類のような大きな群れをなす鳥は、生きものに特別な興味をもたない一般の人々の目にもとまりやすく、幸せを呼ぶ存在や良い環境を示すシンボルとして愛されやすい。

先行事例からも、国民の関心や支持が集まり、環境面のみならず農業・環境・商工等への波及効果、多面的な地域づくりへの効果等が期待できる。